



誰でも確実に文章が読み取れる

文章の読み取りは「3段階の読み」で



筑波大学附属小学校教諭
白石 範孝
しらいし のりたか*1955年鹿児島県生まれ。東京都の小学校教諭を経て、現職。國學院大學栃木短期大学講師。使える授業ベーシック研究会会長、全国国語授業研究会理事、国語ICT研究会会長。著書には、「おいしい国語授業レシピ」(文芸堂)ほか多数。

今年度から完全実施となった新しい学習指導要領では「読解力」が重視されています。しかし、小学校の現場からは「読解力の前提となる文章の読み取りができない子どもが多い」「読み取り方をどう教えていいかわからない」といった声も多く聞かれます。そこで今回は筑波大学附属小学校の白石範孝先生に、文章の読み取り方の「具体的な方法」を教えてください。

「方法」が明確にされていない文章の読み取り

多くの先生方から「子どもたちが教科書の文章をなかなか読み取れない」といった声が寄せられています。その根底には、そもそも「文章の読み取り方」が「方法」として明確にされていないということがあげられると思います。「方法」がはっきりと示されていないのに、「読み取りなさい」と言われても無理な話です。わたしはこれまで、実際に小学校の教壇に立っている多くの先生方と一緒に、「文章の読み取り方」について研究を重ねてきましたが、その中で「3段階」に分けて読むことが、文章を的確に読み取るための方法につながるのでは

全体↓細部↓全体が3段階の読みの基本

いかと考えるようになりました。そこで今回は、「3段階で文章を読み取る」方法を、皆さんにご紹介したいと思います。

「3段階の読み」とは、文字通り作品や文章を3つのステップで読み解くものです。物語教材や説明文教材だけでなく、詩教材や伝統文化教材など、国語の授業で取り扱うすべての文章に当てはめることができると考えています。

おおまかにいえば、

- 第1段階**
→全体の構成をつかんだり、イメージをつくったりする。
- 第2段階**
→細部を読み、関係をつかむ。
- 第3段階**
→もう一度全体を読んだり、イメージを明確化したりする。

という流れです。

第1段階 全体の構成やイメージをつかむ

「文章の読み取り」というときとして「文」の単位までばらしてしまい、その一つひとつを讀んでいこうとするケースが見受けられます。

しかし、書き手は「文章」の全体で一つのことを表そうとしているのですから、まずは文章全体がどのような構成になっているのか、あるいは、どんなイメージを表現しようとしているのかをとらえる必要があります。

第2段階 細部を読み関係をつかむ

ただしこの段階では、構成を深く分析したり、イメージを深く掘り下げたりする必要はありません。全体像をざっくりと押さえることができればいいと思います。

全体像をつかんだら、今度は細部に入っていきます。

一文ずつ細かく見ていくことになるわけですが、一つ注意していただきたいことがあります。文章の頭からすべての文を細かく見ていくのではないということです。

すべての文を吟味しようとしたら、時間がいくらあっても足りませんし、かえって全体としての印象がぼけてしまいかねません。例えば機械の仕組みを調べる場合、まずは機械全体の構造をつかんだあとに、細かな部品について調べていくことになると思いますが、このとき、小さなねじを一つずつ細かく見ていたのでは、いつまでたってもその機械の仕組みを理解することはできません。

大切なのはそれぞれの部品が

第3段階 もう一度全体を読みイメージを明確化する

どのように関係しあっているかを理解することです。

これが物語であれば人物や出来事の原因関係をつかむこととあり、説明文でいえば筆者の主張と具体例の関係をつかむことなのです。

もう一度全体を読み、イメージの明確化を図ります。

第2段階で細部を読んだ後です。第1段階で全体を読んだときとは読みの深さや、理解の仕方も変わってくると思います。

最初に読んだときとの違いを確認することで、「文章を読み取る」ということの意味を子どもたちに認識させることもできると思います。

「要求」だけでは子どもが離れていく

機会があるたびに申し上げることですが、国語の授業の問題点

の一つに、具体的な方法を示さな

いまま、子どもたちにさまざまな活動に取り組ませていることがあげられます。

「わかりやすい文章を書きなさい」というのであれば、どんな文章がわかりやすいのか、どう書けばわかりやすくなるのか、どう書くかわかりにくくなってしまうのかを具体的に示してあげる必要があります。要求だけされて方法を教えてもらえないのであれば、子どもたちの気持ちは国語という学習からどんどん離れていってしまう。

文章を読み取るということもまったく同じです。

読み取るための方法を教えられなければ、いつまでたっても子どもたちは正しく読み取ることができません。

「用語を教える」「方法を教える」「原理原則を教える」は、どんな教科にも共通する指導のポイントだと思えます。

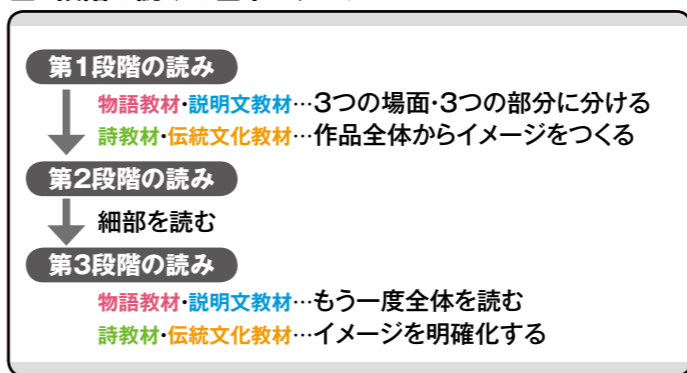
文章の読み取りにおいてもこの点を十分に認識した上で授業を行っていくことが大切だと思います。

3段階の読みの具体的方法

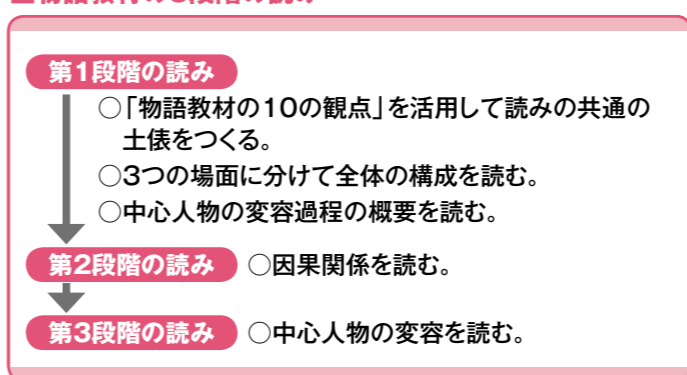
3段階の読みについて、その概略を説明しました。大きな流れはどんな文章でも共通ですが、細かい部分は文章の特性によって変わってきます。

授業を行うに当たっては、それぞれの違いを認識した上で指導に当たっていただきたいと思えます。

3段階の読みの基本パターン



物語教材の3段階の読み



第1段階
3つの場面に分ける読みを行います。「物語教材の10の観点」を活用して、読みの共通の土俵づくりを行います。

「読みの共通の土俵」とは、授業で物語を読んでいくに当たって、物語の基本構成などについて、子ども

物語教材の10の観点

設定	① 時・場所
人物	② 登場人物
	③ 中心人物
事件	④ 語り手
	⑤ 事件
	⑥ 大きく変わったこと
関係づける	⑦ 3部構成
	⑧ お話の図・人物関係図
	⑨ 一文で書く
	⑩ おもしろさ

たちが共通の認識をもつことです。この共通認識がないと、学習の途中でついてこれなくなる子どもが出てしまいます。物語のはじめと結末を強く認識することで、中心人物の変容もとらえやすくなります。

第2段階
登場人物や出来事の因果関係に着目しながら細部を読んでいきます。中心人物の変容はこの因果関係によって起こるわけですから、ここは焦らずじっくりと読み込みます。

第3段階
最後に物語の主題である中心人物の変容を押さえます。第1段階と第2段階をしっかりと行っておけば、難しいことはありません。

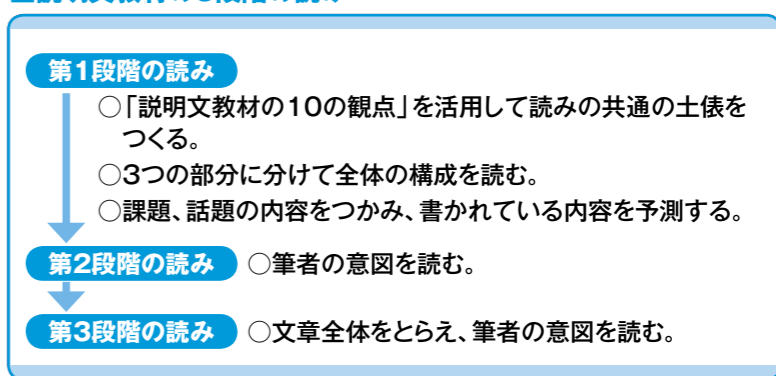
説明文教材

基本的には物語教材と共通しています。

説明文教材の10の観点

- ① 題名・題材
- ② 形式段落
- ③ 意味段落
- ④ 形式段落の主語
- ⑤ 要点
- ⑥ 3部構成
- ⑦ 「問い」と「答え」
- ⑧ 文章構成図
- ⑨ 事例(具体と抽象)
- ⑩ 要旨(主張)

説明文教材の3段階の読み



第1段階
3つの部分に分ける読みを行います。やはり「説明文教材の10の観点」を使った共通の土俵づくりが中

心となります。

説明文の場合は、文章がどのように構成されているかも重要な学習のポイントになります。この段階での通し読みを通じて全体像をつかんでおくことが、その後の学習に役立ちます。

第2段階

筆者の意図を読み取ることが中心となります。ここで役に立つのが第1段階で行った文章構成の把握です。頭括型か尾括型などの文章構成を正しく把握することができれば、その中で筆者が最も主張したかったことは何なのかが見えてきます。

第3段階

もう一度全体に戻ります。第2段階で読み取った「筆者の意図」が文章全体に通じていることを認識し、読み取りが正しかったことを確認します。

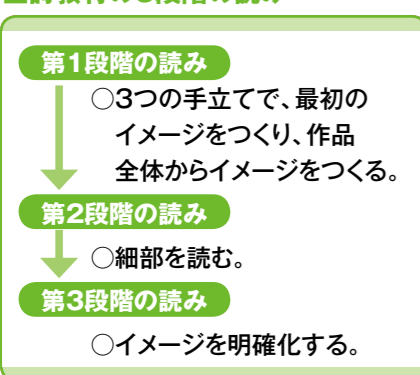
詩教材

第1段階

「詩教材の5の観点」で読みの共通土俵をつくり、「詩の3つの手立て」を活用して最初のイメージをつかむことから始めます。

この段階では表現技法などにもこだわる必要はありません。あくまでも全体としてどのような印象を

詩教材の3段階の読み



詩教材の5の観点

- ① 題名
- ② リズム
- ③ 中心語・文
- ④ 語り手
- ⑤ 技法と効果

詩の3つの手立て

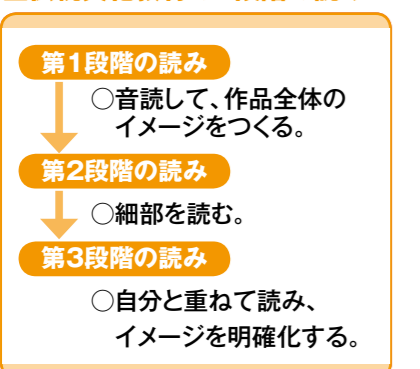
- ① 題名から「問いの文」をつくる。
- ② 「問いの文」の答えを求めて読む。
- ③ 自分のイメージをつくる。

受けるかを大切にしてください。

第2段階

技法や、使われている言葉一つひとつを詳しく吟味していきます。詩の場合は物語や説明文に比べて作者はさまざまな効果を考えながら言葉を選んだり、技法を使ったりしています。その部分をしっかりと読み取ることで、作者が描こうとした世界を深く理解することにつながります。

伝統文化教材の3段階の読み



第3段階
第2段階で学習したことを念頭に置きながら、全体を通して読みます。これによって作品が描こうとしていたイメージの理解がさらに深まります。

伝統文化教材
今回の学習指導要領改訂で新しく入った内容です。それだけにどう扱ったらいいのか戸惑っている方も多いようです。

小学校での伝統文化教材の学習は、中学校での古典や漢文の学習とはまったく異なります。

古典にふれることによつて、いまわたしたちの扱っている文章が長い歴史の中ではぐくまれてきた文化であることや、昔の人と現代の自分の考え方の共通点や異なる点を認識しながら、古典を楽しむ素地づくりが大切になります。

第1段階

「音読」によつて、現代文との違いを音として感じるのが大切になります。はじめは意味もよくわからないかもしれませんが、まずは音として古典を楽しめることができれば十分です。

第2段階

細部を読んではいきますが、中学校の古典の学習ではないので、逐語的に現代語訳をさせる必要はありません。わかりにくい部分は教師が意味を説明しながら、全体の意味を感じ取ることができればいいでしょう。

第3段階

伝統文化教材ならではの特徴的な部分です。

古典作品の作者の世界と自分を重ね合わせることで、現代の文化や考え方が、長い歴史の中で培われてきたことを感じ取らせます。

教材がわかる! 授業ができる!!

大好評 新刊

3段階で読む 新しい国語授業

編著 筑波大学附属小学校 白石範孝

●B5判 144ページ2色刷
●定価 2,100円(本体2,000円+税)

2011年春からの新教材分析を緊急追加!

新教科書の各教材を徹底分析
そのままで使える授業案と厳選例
題の「白石理論 実践編」!
文芸